

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：32640

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01891

研究課題名(和文) 米国マイノリティ問題の総合的研究：マイノリティ研究と環太平洋的視点のリンケージ

研究課題名(英文) Synthetic Studies on the US Minority Issues: Rethinking Minority Studies from the Transpacific Perspective

研究代表者

李 里花 (LEE, Rika)

多摩美術大学・美術学部・准教授

研究者番号：50468956

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は次の三点である。第一に、研究会や国際シンポジウム開催を通して、環太平洋的視点がマイノリティ研究において重要な枠組みとなることを確認した点である。第二に、個別テーマに沿った調査研究を実施し、本研究の議論を実証的研究からも深めた点である。第三に、本研究の成果を個別報告以外に、シンポジウムも開催し、広く発信しただけでなく、日本語、英語、韓国語で国際的に発信できた点である。

以上の点から、本研究が目標とした(1)マイノリティ研究と環太平洋的視点の学問的リンケージ、(2)マイノリティ研究のネットワーク構築、(3)研究成果のグローバルな発信について一定の成果を達成することができた。

研究成果の概要(英文)：The goal of this research is to (1) introduce transpacific perspective into US minority studies, (2) develop dialogues among minority studies in US and Japan, and (3) present the papers at the national and international conferences.

This project was able to achieve this goal from the following aspects. First, this project hosted meetings and international conference, and was able to develop the series of dialogues with the scholars of minority studies in Japan and US to discuss about the issues on minority studies and transpacific perspective. Second, the members conducted individual research and was able to provide empirical studies for the minority studies from transpacific perspective. Third, this project held a symposium in the final year to address the issue of this research agenda to the wider audience. The members also published their papers in Japanese, English and Korean and was able to provide the research result in Japan and outside of Japan.

研究分野：社会学

キーワード：環太平洋 トランスパシフィック マイノリティ リンケージ 移民難民 ジェンダー 米国のマイノリティ問題 日本のマイノリティ問題

1. 研究開始当初の背景

これまでマイノリティに関する研究は、一つの国民国家の枠組みの中で行われることが多かった。それはマイノリティ研究が、社会の中で周縁化された人々を研究対象とし、主流社会の権力性や国民性を相対化するために発展した学問分野であるため、必然的な面もある。アメリカのマイノリティ研究も、公民権運動とともに発展したという歴史的背景から、アメリカ研究という一つのナショナルな境界内で記述/分析されることが多かった。

さらにマイノリティ研究は、歴史学や人類学、社会学など多岐の学問分野で行われ、その中で人種、エスニシティ、ジェンダー、移民、障がいといった複数のテーマにわかれて、細分化された専門分野となっている。アメリカのマイノリティ研究においても、集団ごとに研究が行われ、研究テーマや研究分野の「棲み分け」が行われてきた。

これに対して、近年のグローバリゼーションやトランスナショナルな研究の分野は、一国主義的で細分化された状況を超えようとしているものの、マイノリティを超国家的存在として描き出す傾向もある。しかしグローバルやトランスナショナルな現象 例えば移民や外国人労働者、社会運動のグローバルなネットワークなどは、当該の歴史・社会・国際的状况に対応する生存戦略として、多様かつ交錯した形で現れていると考えられるべきである。そのため、マイノリティ研究においては、近代世界の我々/他者、西洋/東洋、包摂/排除といった二項対立的な思考枠組みを超越する歴史性を追求しつつ、グローバルな視点からの相互連関的記述/分析が不可欠である。

2. 研究の目的

よって本研究は、マイノリティの歴史性を重視しながら、近現代アメリカ社会の諸問題を考察するが、細分化・専門化され、ナショナルに閉じたマイノリティ研究を超えることを目指し、マイノリティ研究のリンケージを提示することを目指した。その方法としては、(1)アメリカのマイノリティ問題 人種、エスニシティ、移民/難民、ジェンダー/セクシュアリティを中心に を取り上げ、その問題をめぐる、環太平洋の他地域や他分野のマイノリティ研究との連続/非連続を分析する。そして(2)これらの研究業績を環太平洋の他地域や他分野のマイノリティ問題を扱う研究者と共有し、研究の発展において連携・連動していくことで、マイノリティ研究のリンケージとネットワークを構築し、その研究成果をグローバルに発信していく。これにより、マイノリティ問題の総合的理解を深め、「多文化共生」社会の実現に貢献するこ

とを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、4つのマイノリティ問題(人種、エスニシティ、移民/難民、ジェンダー/セクシュアリティ)を4人の主要メンバー(代表者と分担者)が担当した。各自主要テーマを1つ担当し、現地調査を行いつつ、読書会と勉強会を開催し、国内外のマイノリティ研究者と対話を重ねた。この作業を通して、マイノリティ研究の学問的リンケージを提示するとともに、日本を拠点とする学際的マイノリティ研究の研究基盤を築くことを目指した。これらの個別研究と定例研究会の成果を踏まえ、最終年度にはシンポジウムを開催することによって、その研究成果を検証と発信を行った。

4. 研究成果

本研究の成果は、主に次の三点にあげられる。

第一に、読書会、研究会、国際シンポジウムの開催を通して、マイノリティ研究の課題とリンケージについて国内外の研究者と対話を重ね、マイノリティ研究の課題 - 特にナショナルに閉じ、細分化したマイノリティ研究の課題 を超えるために、重層的空間としての環太平洋/トランスパシフィックという視点が重要であることを確認した点にある。尚、本研究の研究会および国際シンポジウム開催に招聘・参加した研究者は次の専門家である。イェン・エスピリッツ(米国カリフォルニア州立大学サンディエゴ校)、柏崎千佳子(慶応大学)、拝野寿美子(神奈川大学)、久保忠行(大妻女子大学)、徳永悠(京都大学)、松坂裕之(ミシガン大学)。

第二に、代表者と分担者がそれぞれ個別テーマに沿った調査研究を実施したことで、マイノリティ研究と環太平洋の視点のリンケージ構築をめぐる議論に対して、実証的研究を提示しながらその議論を深めることができた点である。個別テーマとその主な成果は、次の通りである。

李里花(移民): ハワイのコリア系移民の歴史を環太平洋的視点から紐解いていくことで、移民の伝統と文化の発展が、ホスト社会と祖国、キリスト教的ネットワーク、ジェンダー的ネットワークの中で形成されていく側面を明らかにした。

兼子歩(セクシュアリティ・ジェンダー): 1970年代から80年代にかけて活動していたアジア人およびアジア系アメリカ人の同性愛者の団体に関する史料から、環太平洋世界を移動したマイノリティの歴史にジェンダーとセクシュアリティの観点を提供した。

佐原彩子(難民): 1950年代からアメリカ政府による難民援助が非政府組織の運営を必要としていたこと、近年の難民政策が反ムスリム言説を中心としていることを明らかにした。

菅美弥(人種): センサス調査票のデータベース化を行ったほか、センサス調査票とその他史料のリンケージの観点から1860年、1870年センサスに記載があった、日本から移動、移住した人々へのセンサス調査と日本人移住の歴史の接合点を明らかにした。

第三に、本研究による成果を、個別報告による発表以外に、シンポジウムの開催を通して広く発信できた点にある。また研究成果を日本語、英語、韓国語で国際的に発信することができた。

以上の点から、本研究が到達目標とした(1)マイノリティ研究と環太平洋の視点の学問的リンケージ、(2)他地域や他分野のマイノリティ問題を扱う研究者との連携とネットワーク構築、(3)研究成果のグローバルな発信について、一定の成果を出すことができた。

尚、実施前に比べて、環太平洋の視点に関する関心が高まり、現在トランスパシフィック論やトランスパシフィック研究といった形で環太平洋をめぐる議論が活発化している。本研究はこのトランスパシフィック論の台頭に大きく貢献するものとなったが、一方で現在のトランスパシフィック論は枠組みについての議論が多いことから、本研究が実施したような個別的・実証的研究をさらに行っていくことが求められる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

菅(七戸)美弥(2018年)「日本人移住史とセンサス史のリンケージ:1860-1870年」『JICA 横浜海外移住資料館研究紀要』(12) pp.1 - 21、査読あり

李里花(2017)

『(女性と歴史)』(26)、pp.27-56、査読有り

李里花(2017)「Inventing Korean Tradition in Hawai'i: Race Relations and Modernization of Korean Immigrant Women in prewar Hawai'i」『(女性と歴史)』(26) pp.57 - 79、査読有り

兼子歩(2017)「アメリカ南北戦争の記憶の社会文化史的研究:南北戦争後の半世紀をめぐる議論を中心に」『明治大学教養論集』(527) pp.89 - 113、査読無し

菅美弥(2016)「その他全ての自由人」:「マイノリティ」への米国センサス調査の初期事例」『オケージョナル・ペーパー(法政大学日本統計研究所)』(68) pp.1 - 56、査読無し

菅美弥(2015)「Recounting International, Interracial, and Multicultural Families among Japanese Immigrants through Census Manuscript Population Schedules」『The Japanese Journal of American Studies』(26) pp.75-97、査読有り

佐原彩子(2015)「合衆国難民政策の人道主義と新自由主義的世界秩序:インドシナ難民受け入れを事例に」『歴史学研究』増刊号、pp.149 - 158、査読無し

[学会発表](計 18 件)

李里花(2018年)「Becoming A 'Korean' Dancer in Postwar Hawai'i: Halla Pai Huhm and Her Transpacific Routes」日本アメリカ学会年次大会(ワークショップA: Transpacific Overture)(北九州大学)

李里花(2017)「環太平洋の視点からみるハワイ・コリア系移民女性の舞踊:舞踊史の地域間リンケージ構築に向けて」日本アメリカ史学会年次大会(シンポジウム「マイノリティ史研究と環太平洋世界」)(愛知県立大学)

菅(七戸)美弥(2017)「トランスパシフィックな移民・移住史とセンサス史のリンケージ:1860-1870年」日本アメリカ史学会年次大会シンポジウム「マイノリティ史研究と環太平洋世界」(愛知県立大学)

佐原彩子(2017)「American Aid in Indochina: U.S. Humanitarian Aid for Refugees in a Transpacific Perspective」若手アメリカ研究者国際フォーラム「アメリカの世紀とその行方」(中央大学)

佐原彩子(2017年)「『人道』からみる『セキュリティ』へ:対テロ戦争時代の難民排斥と包摂」立命館大学国際言語文化研究所連続講座:越境する民、接触、排除、第2回(立命館大学)

菅(七戸)美弥(2017)「会津の記憶/ワカマツのナラティブ:トランスパシフィックな移民・移住史とセンサスの交点から」日本アメリカ史学会年次大会(愛知県立大学)

李里花 (2017) 「Immigrant Community and Culture」世界韓人学術大会 (Lotte Hotel Seoul)

李里花 (2016) 「Transpacific Linkage in Korean Diaspora Studies: Narratives on Statelessness among Koreans in prewar Hawai'i and postwar Japan」ASA - in - Asia (同志社大学)

李里花 (2016) 「国がないディアスポラの歴史を語る」(ラウンドテーブル移民研究のフロンティアを語る) 日本移民学会 (阪南大学)

李里花 (2016) 「書評『在日朝鮮人という民族経験』シンポジウム「帝国とマイノリティの歴史経験を読み解く: 李洪章『在日朝鮮人という民族経験』を手がかりに」(上智大学)

李里花 (2016) 移民研究における環太平洋的視点を考える: コリア系移民の伝統舞踊をめぐる語りを中心に」日本移民学会冬季大会 (東京学芸大学)

李里花 (2015) 「Country-less Identity: A Korean woman in postwar Japan and Koreans in prewar Hawai'i」International Symposium, Across the Pacific Ocean: Korean Women in the Early 20th Century (East-west Center, University of Hawai'i)

兼子歩 (2015) 「同性愛運動と現代アメリカ・リベラリズムの限界」日本アメリカ学会 (国際基督教大学)

佐原彩子 (2015) 「合衆国難民政策の人道主義と新自由主義的世界秩序: インドシナ難民受け入れを事例に」歴史学研究会 (慶応大学)

佐原彩子 (2015) 「米越関係の狭間で紡がれる物語: VAOHP の取り組みから考察するベトナム系アメリカ人コミュニティ」日本アメリカ学会 (国際基督教大学)

佐原彩子 (2015) 「アメリカのベトナム撤退における難民救済作戦の政治性」20 世紀東時アジアをめぐる人の移動と社会統合第 3 回国際比較研究会 (琉球大学)

菅美弥 (2015) 「Recounting International, Interracial and Multicultural Families among Japanese Immigrants through Census Manuscript Population Schedules」日本アメリカ学会 (国際基督教大学)

菅美弥 (2015) 「センサスからみるトランスナショナル・インターレースナルな家族のかたち: 初期日本人移民を事例に」日本女子大学学術交流講演会「ルーシー・クラフト氏のドキュメンタリーからたどる 3 人の女性のライフヒストリー: グローバルな視座をもって」(日本女子大学)

[図書](計 7 件)

李里花 (2018) 金孝男訳「ハワイにおけるコリアン伝統の創出: 戦前のハワイにおけるコリア系移民女性の民族関係と近代化」(原文は韓国語) 『グローバル時代の勧告的価値と文明研究の課題: 韓国のアメリカ地域的女性移住と留学に関する研究』AKS 出版(予定)

兼子歩 (2017) 「序 アメリカの歴史から考える」, 「第三章 統治の制度としての多様性 - アメリカ同性愛者権利運動の歴史から考える」, 兼子歩・貴堂嘉之編 『「ヘイト」の時代のアメリカ史 人種・民族・国籍を考える』, 彩流社, pp.7 - 23, pp.71 - 94

佐原彩子 (2017) 「第 11 章 アメリカ難民政策の問題点」, 兼子歩・貴堂嘉之編 『「ヘイト」の時代のアメリカ史 人種・民族・国籍を考える』, 彩流社, pp.257 - 278

佐原彩子 (2017) 「24 章 米国における難民概念」, 「25 章 米国国境を越える中米難民」, 「26 章 米国の難民政策」, 「27 章 米国における移民問題と難民問題」, 山田満・滝澤一郎編 『難民を知るための基礎知識』, 明石書店, pp.249 - 286

李里花 (2015) 『「国がない」ディアスポラの歴史: ハワイ・コリア系移民のナショナリズムとアイデンティティ』, かんよう出版, pp.1 - 206

兼子歩 (2015) 「新しい女性運動 とその後」, 梅崎透・西田慎編著 『グローバル・ヒストリーとしての「1968 年」 世界が揺れた転換点』, ミネルヴァ書房, pp.331 - 360

菅美弥 (2015) 「『アジア』の包摂と排除: 19 - 20 世紀転換期米国センサスのポリテイクス」, 「人の移動とアメリカ」研究プロジェクト編 『エスニック・アメリカを問う「多からなる一つ」への多角的アプローチ』, 彩流社, pp.13-40

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

米国マイノリティ問題の総合的研究
<http://minoritystudies.main.jp/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

李 里花 (LEE, Rika)
多摩美術大学・美術学部・准教授
研究者番号：50468956

(2) 研究分担者

菅 美弥 (SUGA, Miya)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：50376844

佐原 彩子 (SAHARA, Ayako)
大月短期大学・経済科・准教授
研究者番号：70708528

兼子 歩 (KANEKO, Ayumu)
明治大学・政治経済学部・講師
研究者番号：80464692